

中道 — お彼岸を迎えるにあたって —

彼岸 春分・秋分の日を挟んだ前後三日間を含む合計七日間

サンスクリット語の「パーラミター」（波羅蜜）で、意味は「到彼岸」

彼岸は仏さまのいる心安らかな世界、涅槃

彼岸に対し私たちのいる世界を「此岸」

お彼岸は日本だけの行事

春分・秋分の日には太陽が真東から昇り、真西に沈む 昼夜の時間が同じ

西には極楽浄土がある。真西に沈む太陽を拜むことで極楽浄土へ思いを寄せた

日本の太陽信仰と結びつき日本独自の仏教行事となる

やがて先祖供養へと変わっていった

太陽が真東から昇り、真西に沈む

北にも南にも偏っていないことから仏教の根本的な考え方である「中道」と結びつく

中道 極端な行動や思考に偏らない中庸を心がける生き方

お彼岸は中道を心がける仏道修行の期間でもあります。仏さまのように心穏やかに過ごし、そしていまここに生きていることをご先祖様に感謝して手を合わせてまいりましょう。

令和六年九月十九日 加茂法話会

田上町 安龍寺 齋藤隆光